

そうだ、図書館へ行こう！

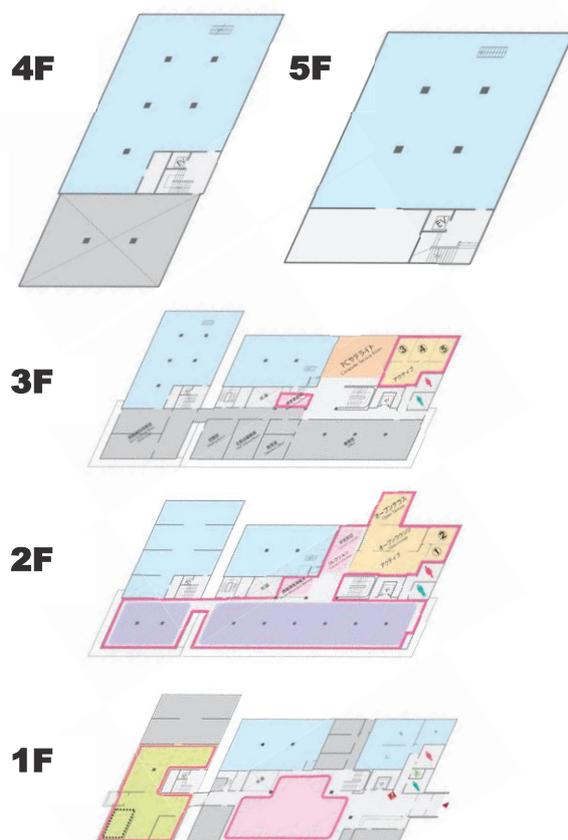
弘前大学附属図書館には、本館・分館の二つの図書館があります。
今回は、文京キャンパスにある本館を中心にご紹介いたします。



| 本館フロア MAP |

弘前大学附属図書館(全館)では、図書約 840,000 冊、雑誌 25,600 種類の
たくさんの資料を所蔵しています。

-  グループでの利用に最適なラーニング・コモンズ
席を自由に組み替えて使うことができます。
-  静かに集中して学習できるサイレントエリア
コンセントや LED ライト付きの机もあります。
-  誰でも自由に入ることができる書庫
和・洋図書、和・洋雑誌、新聞バックナンバーなどがあります。
-  4つのエリアから構成されるアカデミック・コモンズ
多読本や小説、文芸書などを置いています。
-  飲用可能
-  飲食可能
-  ひとりで勉強
-  グループ学習
-  パソコン利用
-  etc.



| 図書館 WEB サービス |

MyLibrary



現在借りている資料の確認、貸出履歴一覧、貸出期間の延長、施設の利用予約などができるシステムです。また、事前に参考調査カウンターで登録することで、学外資料の取り寄せ依頼も可能になります。



MyLibraryで延長手続きをするときは、確認ボタンをおすことを忘れないでね！

OPAC



OPACは弘大図書館で所蔵する図書、雑誌、弘大大学術情報リポジトリに登録された論文を検索できるシステムです。図書館HPにリンクが貼られています。キーワード、書名、著者名などを1つ以上入力して検索します。上の簡易検索画面の他、詳細検索画面があります。無料公開されており、自宅からでも利用できます。スマートフォンでも簡易版が利用できます。

また、OPACサイトページ上部にあるリンクからは、新着図書や貸出ランキングもチェックできます。

| おすすめスポット |



1F
閲覧室

津軽の伝統であるこぎん刺しのパネルと、ブナコのランプの閲覧席です。館内の閲覧席から、お気に入りの席を見つけてみてください。



1F
リフレッシュ
スペース

密閉できる蓋付き飲み物は、閲覧席でも飲むことができますが、こちらは、館内唯一の食べ物を食べることができるスペースです。



2F
オープンテラス

5～11月頃の暖かい日には、2Fオープンテラスを開放しています。蓋付き飲み物を持ち込んで、風に当たりながら過ごせます。



2~3F
グループラーニング
ルーム

個室でディスカッションしながらの勉強はこちら。予約制ですが、グループ学習や、大人数でのワークショップ等にもおすすめです。



4~5F
第2書庫
(和雑誌)

雑誌はタイトル順に並んでいます。和雑誌がある第2書庫4～5Fの窓からは春には桜、秋には紅葉を堪能できます。

図書館をたくさん利用して、自分にピッタリな過ごし方を見つけてください！

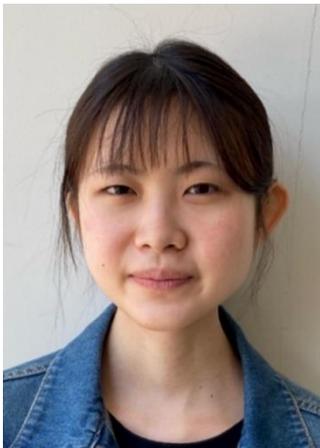


本との出会いを楽しむ

第 32 回 先輩達の本棚

佐藤伶奈

宮城県仙台市出身。宮城県宮城野
高校卒業。2021 年弘前大学人文
社会科学部文化創生課程入学。
2023 年度附属図書館アルバイト。



今回で第 32 回となる連載企画「本との出会いを楽しむ」。毎回、弘前大学にゆかりのある教職員、学生、卒業生の方々に、お気に入りの本を紹介していただいています。

生を考える

私にとって本は、一時でも不安を和らげてくれる存在です。特にファンタジー小説は何かの手掛かりや体験をもたらしてくれます。

私の心に残っているその一つが『ゲド戦記』です。これは魔法使いが魔法を一助にしながら世界を旅する物語です。読んでいると、私は鳥のような目線で旅路を追ったり一緒に旅をしたりしているようなわくわくした気持ちになります。魔法のある世界は現実とはかけ離れたものを感じるかもしれません。ですが、その世界で人々は惑い、失敗をするたびに葛藤や対話を繰り返します。そして、彼らは何かを培っていきます。このような姿は現実の私たちの世界にも通じるものがあると私は感じます。彼らの姿や培ったものから私は生きるヒントや新たな考え方を知ることができました。読書は忙しい日常から私を一旦遠ざける時間であると同時に、私自身と対峙する時間でもあります。

魔法使いは何を求めて旅をしているのかかみどころがありません。自身もその何かをはっきりとは認識できていないと思います。それでも、手元にあるものと思いを頼りに、時に身を委ね、

恐れながら、より確からしいと思う方向へと旅をします。私はこの魔法使いの姿が、誰もが危機に陥る可能性のある現実の私たちが迷いながらも、確固たる自己や何かを求めて前へ進もうとする姿と重なりました。人間や世界を俯瞰することができた作品です。

私自身と対峙するきっかけを与えてくれたもう一つの作品が、『恋せぬふたり』です。これはアロマンティックとアセクシュアルの二つの指向をもつ二人の人物の生活を描いています。身の回りの「普通」に翻弄される困難が言葉にされており、私がぼんやりと抱いていたセクシュアリティの疑問の輪郭を明確にすることができました。

そして、私は<今>自分が生きる上で大切にしたいものや価値観は何かを考える視座をもつことができました。私は自分がどう生きるかという問いを考えることが増えました。そこで何も答えを出せず、将来に希望を見出せずにいました。しかし、この作品から私は、人生は一回の選択で決まるもの、決めなければならないものではなく、都度変わりうるものだということを気づかされました。作中では、ある一人が過去の選択の結果得られた今の人生に満足していたつもりが、現在は自分の内

今回は、弘大図書館での勤務経験がある先輩方に、お気に入りの本を教えていただきました。今までにご紹介いただいた本と合わせて、皆さんの本との出会いの一助となれますように……

にそれとは異なる、新たな人生を生きたいという希望があることを自覚させられます。そして、葛藤の末新たな人生を生きる選択をします。将来への漠然とした不安は今も変わりませんが、この作品を読んだことで自分の<今>の気持ちに正直になって生きることが未来へとつながるといふ前向きな考え方も頭の片隅におくことができている。

(さとう れいな)

「恋せぬふたり」
吉田恵里香 著

913.6
Y86k

企画展示コーナー(本館 2F)

文屋慎太郎

宮城県仙台市出身。令和4年弘前大学農学生命科学部食料資源学科入学。写真と旅行が趣味で、暇さえあれば旅行の算段を考えているごく普通の大学生。



読書が人生の深みをつくる

先日、青森県立美術館に訪れた際にとあるコーナーを見つけました。それは「あなたにとって“豊かさ”とは？」という質問に対して、地元の方々が普段の朝ご飯の写真と併せて回答するというものです。みなさん“豊かさ”について真剣に考えており「健康でいること」や「家族と一緒に生活すること」など様々な回答がありました。私も“豊かさ”について弘前に帰る電車の中でずっと考えていたのですが、行き着いた答えは「当たり前の日々を幸せに感じるこ」とでした。我々が普段から経験する様々な出会いや出来事を幸福に感じるこ、それこそが心の“豊かさ”なのだと思います。

豊かさを追求するには読書は必須です。私にとっての読書とは新たな世界を開拓することと考えています。本は人生の羅針盤です。読書は自分を成長させるのです、と述べてみたものの私は大学生になってから読書の大切さを知りました。『読書する人だけがたどり着ける場所』には読書をする習慣の重要性を著者が丁寧に説いています。読書の指南書にピッタリの一冊です。また、文中で紹介される書

籍は図書館にあるものも多いので、気になった本は読んでみるのも良いかと思います。

考え方の可変性も豊かさに繋がります。学びや活動を通して考え方を常に変えていく柔軟さが人生を楽しくする一つの方法だと思います。考え方の違いを知ることの面白さは『ドーナツを穴だけ残して食べる方法』を読むと分かりやすいと思います。この本はタイトルにある通り「いかにしてドーナツの穴だけ残して食べるか」について様々な分野の研究者が真剣に答えを見つけていくという内容になっています。一つの事柄に対して様々な方面から考察する、これは日常生活にも生きてくる考え方です。何かに行き詰まった時に誰かと話をするこで今までになかった視点を発見することができ、すんなりと解決するこもよくあるこです。

多くの人は物事に不満があるときに、他者や社会といった周囲を変えようと努力しますがります。不満は幸せと少し離れた場所にあるものです。周囲を変えるこは莫大なエネルギーを必要とします。そのため、多くの場合は周囲を変える前に自身が折れ、結局は不満が溜まったままの生活を過ごします。不満だ

過去の「本との出会いを楽しむ」

らけの生活の先には空虚な生活、あるいは常に文句が漏れ出ている自分が待ち構えています。絶対にそんな生活は楽しくないです。私は物事に不満が生じた際には「自分が変わる」とが大事だと思います。変化には良書が付きものです。本と出会い続けることで、いつか自分を変えてくれる本に出会おうと思います。そういった運命的な本は心を“豊か”にしてくれることでしょう。

(ぶんや しんたろう)

「読書する人だけがたどり着ける場所」

齋藤孝 著

019
Sa25d

開架図書(本館 2F)

「ドーナツを穴だけ残して食べる方法」

大阪大学ショセキ
カプロジェクト編

002
D85

開架図書(本館 2F)

第23回 社長の本棚

[虚数の情緒：中学生からの全方位独学法](#)

[ゲーデル、エッシャー、バッハ：あるいは不思議の環](#)

第24回 先輩の本棚

[論理哲学論考](#)

[語りえぬものを語る](#)

[宇宙が始まる前には何があったのか](#)

第25回 教師の本棚

[12の贈り物 世界でたったひとりの大切なあなたへ](#)

第26回 学長の本棚

[君たちはどう生きるか](#)

第27回 珈琲研究会の本棚

[コンビニ人間](#)

[正欲](#)

第28回 公認会計士の本棚

[MG から生まれた戦略会計マニュアル](#)

第29回 看護師の本棚

[ベナー看護実践における専門性：達人になるための思考と行動](#)

第30回 図書館長の本棚

[指輪物語](#)

第31回 編集長の本棚

[こころの旅](#)

過去の豊泉は附属図書館ウェブサイトで公開しています。

<https://ul.hirosaki-u.ac.jp/about/publications/hosen/>



第4回「林檎の淡雪」

今回紹介するレシピは、『食道楽』のなかで登場した「林檎の淡雪」です。

食道楽は、1903（明治36）年、報知新聞に1年間連載され人気を博した新聞小説です。また、連載中に順次刊行された春夏秋冬の4巻の単行本も飛ぶような勢いで売れた明治のベストセラー小説でもあります。

この小説は、明治時代の言葉で書かれている部分があり、現代の表現とは異なる部分が多いため、少し読みづらさを感じられるかもしれません。しかし、図書館本館で所蔵している岩波文庫発行のものは、原文が文語文である箇所以外は、旧字・旧仮名づかいを現代仮名づかいに改められています。また、物語は春・夏・秋・冬の4つから構成されており、それぞれの季節の中でも、さらに内容が細かく分かれているため、読み進めやすいと思います。

この物語は、正月にお雑煮を食べる場面からはじまり、その中で胃や腸の会話がでできます。

最初は何のことか分からなかったのですが、読み進めていくうちに、ある人の夢の中の話だと分かり、もう一度最初のページに戻って読み返したくなるような内容でした。

食道楽は、それぞれの物語の最後に、料理の簡単な作り方や食材に関する豆知識などが書かれており、楽しく読むことができます。

今回挑戦したレシピも、「春」の第14「廃物利用」で食後のお菓子として登場したものです。

林檎の淡雪に使用した材料は、りんご、ゼラチン、砂糖、レモン果汁の4つとシンプルで、少ない工程で作ることができました。しかし、口当たりをよくするための裏ごしは、木ペラをりんごの上から当ててすりつぶす作業ですが、簡単にこせず大変でした。実際に作ってみた林檎の淡雪は、なめらかなゼリーになっていたため、裏ごしをしてよかったと思える完成品となりました。

—「食道楽」—

りんごが有名な弘前には、アップルパイのお店がたくさんあります。りんごをアップルパイにしたり、生で食べたりするのも良いですが、りんごを使ったレシピは他にもたくさんあるので、これからもりんごを使った料理やスイーツに挑戦したいです。

また、「1日に1個のりんごは医者を選ばせる」ということわざもあるように、りんごは体にも良い果物です。私は毎日りんごを食べているので、これからもたくさんりんごを食べて健康でいたいです。

ぜひみなさんも、この小説に登場する明治時代のレシピを試してみたいかがでしょうか。

食道楽（上）
村井弦斎作

和図書（第1書庫 2F～5F）

080
3
4163

食道楽：増補註釈（春の巻）
村井弦斎著

和図書（第1書庫 2F～5F）

913.6
Mu41
1

“より多くの人へ伝えるために”の巻

トショカンの舞台裏

弘大図書館のホームページで「デジタルアーカイブ」を公開しているのをご存知ですか？弘前大学が所蔵している貴重な歴史資料をデジタル化し、無料で公開しているものです。本来ならば、閲覧の申請書を出して許可されないと見られない貴重資料が、わざわざ図書館まで足を運ばなくても、世界中どこからでもインターネット上で閲覧できます。

今、研究成果や過去のデータのオープン化が加速しています。

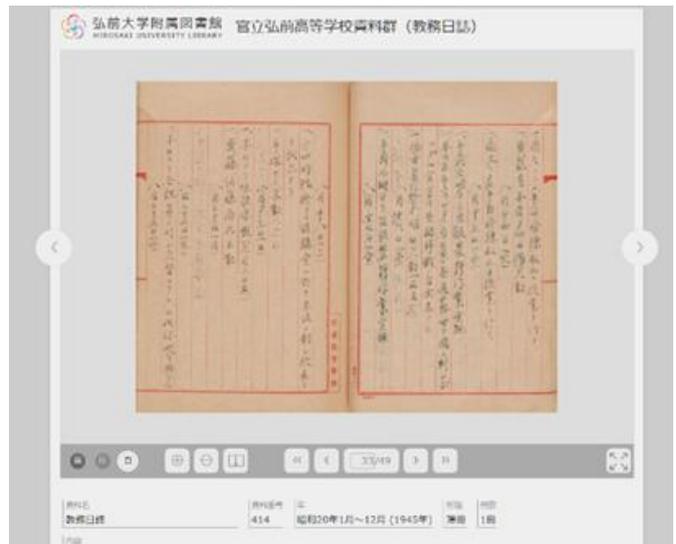
.....時を越えて.....

現在、附属図書館の事業として、「国立弘前高等学校資料群」という 1,400 点以上もある膨大な資料の一部デジタル化を進めています。令和 4 年度は「開校・閉校関係資料」「北溟寮関係資料」「教務日誌」をデジタル化して公開し、令和 5 年度は「本省令達書類」「式典関係資料」を公開しました。

このうち、特にご覧いただきたい資料が「教務日誌」の「昭和 20 年（1945 年）」です。そう、終戦の日のことが書かれています。その日は、午前 7 時から生徒は農作業をしていて、正午のラジオでポツダム宣言を受諾し停戦したことが発表されたと記されています。この資料は文字が裏写りして非常に読みにくいのですが、当時を知ることができる、とても貴重な資料です。画像でも分かりますが、戦争中はどんどん紙質が悪くなり、昭和 20 年に至っては、薄い紙の両面に書いているので文字が裏写りしてしまっています。むしろ大正時代の資料の方が、紙質も良くて今でも綺麗な状態で残っています。

.....後世に残すために.....

デジタルアーカイブの仕事は、資料の選定から始まり、見積合わせで業者を決めて、資料の撮影、公開用画像の作成、と進めていきます。古い資料なので、画像にした際に文字が読めるかどうか、全ページについて確認します。文字が薄くて読めない



ページは色を調整して濃くすることもあるし、再撮影してもらうこともあります。細かい確認作業が多く、目が疲れます。でも、この資料を公開して後世に残すことにより、いつか研究に役立つかも、という思いで、デジタル化を進めています。

.....学術情報をオープンに.....

令和 6 年 5 月 17 日、弘前大学オープンアクセスポリシーが策定されました。オープンアクセス（以下 OA）とは、学術論文をインターネット上で公開して、誰でも無料で読めるようにしようとすることです。現在、学術雑誌の値上がりにより多くの大学で学術雑誌・電子ジャーナルを維持するための財源を確保することが非常に困難になってきています。そこで世界的に出てきた動きが学術論文の OA 化です。OA にする方法は 2 つあり、一つは OA 誌に投稿する、または OA のオプションを選択する方法で、APC（論文掲載料）を支払うゴールド OA という方法です。もう一つは、大学等が運用する機関リポジトリに掲載するグリーン OA という方法です。リポジトリなら無料で論文を公開できます。

2025 年の新規公募分から科研費による研究成果の即時 OA が求められることに伴い、各大学でも OA 方針を策定し、積極的に OA 化を進めています。本学でも、OA 化をこれから積極的に進めていく予定ですので、皆様のご協力をお願いいたします！



「貴重資料一覧」

<https://ul.hirosaki-u.ac.jp/collection/rare/>

大学の図書館カウンターでアルバイト中、
花の絵が描かれた菜と暗号のようなメモを見つけた二人は……

菜と嘘の暗号 第三回

「あつた!」

思わず声を出してしまい、慌てて周りを見回した。新聞が保管されている第2書庫はしんと静まり返っていて、誰もいない。けれどドア一枚向こうはサイレントエリアで、今も多くの学生が机に向かって勉強している。

ドアのガラス越しにそつと、誰もこちらを気にしていないことを確認して、目の前に新聞の束に向き直った。

この書庫の新聞……原紙は、半月分まとめて束にして、紐で縛って保管されている。書架に貼ってある新聞紙名と発行年の掲示を頼りに目当ての記事を探すと、ちょうどその記事の部分に菜とメモが挟まっていた。

「紙面の数字も、メモしてきてよかつたな」

二十面以上あるものを、一枚ずつ確認していくのはなかなかの手間だ。それでも、ここにある十種類以上の新聞を一枚ずつめくっていくよりは遥かにマシだろう。

今度の菜には白い花が描かれていた。真ん中が黄色で花弁が白く、コスモスに似ているが形が少し違う気がする。

「そして暗号はこれ……か」

本のタイトルのようだが、やはり長い。友達が読んでいたラノベのタイトルみただ。けれど、これならOPACに入れば一発で見つかりそうだ。いくつか書いてある数字の意味はよくわからないが、4桁の数字はたぶん出版年だろう。

「よし」

メモはポケットに入れて、まずは新聞を紐で結びなおして元の場所に戻す。

カウンターに戻って先輩に相談

するまでもない。このまま書庫に探しに行けばいい。

自分のスマホを取り出して、弘大図書館のウェブサイトでOPACにアクセスした。

「あ、遅かつたな」

カウンターに戻ると先輩は笑顔で手を振ってくれたが、すぐに首を傾げた。

「新聞、見つけられなかったか?」

「いや……新聞はあつたんですけど……」

一枚の葉をひらひらと揺らしながら、降参とばかりにメモを先輩に差し出した。

「このタイトルの本、ここには無いみたいで」

OPACで何度検索してもヒットしない。漢字や送り仮名を変え

てみたり、言葉を短く区切ってみてもダメだった。自分一人で見つけたかったのに、結局先輩に頼ってしまっているのが悔しい。

「本、ていうか、論文だろ、これ」

「論文?なんでわかるんですか?」

「なんでって……番号ついてるし、ページ数と出版年もついてるし。」

あ、C i n i i は見てない?」

「さいにーってなんですか?」

あまり聞き覚えのない響きだ。

「サイニリーサーチ。論文とか本とかいろいろ、一括で調べられるやつ」

そう言っつて、先輩はパソコンの画面に表示させたOPACの検索窓に、メモのとおり長いタイトルを入力していった。そして、検索ボタンではなく、真下にあるC i n i i というボタンをクリックして……

つつく



Library's Half Year 2023.12~2024.5

12月	12/12 マイ知資料一覧 HP 掲載
	1/1 転換契約導入
	1/15 ミーティングルーム・ワーキングスペース設置 (分館)
1月	
2月	2/9 R5 年度延長開館最終日 (本館)
	3/1 R5 年度第3回 図書館運営委員会 図書選定委員会 蔵書点検 (~3/22) 「弘前大学闘争関係資料」貴重資料 指定 PC 無料貸出機のリニューアル再開
	3/27 オナーナイト 文献検索講習会受付開始
	3/28 「官立弘前高等学校資料群」デジタルアーカイブ公開
3月	
4月	4/11 基礎セミナー実施 (~6/28)
	5/13 POP コンテスト作品募集開始 (~7/12)
	5/14 新聞記事・辞書事典データベース 活用セミナー
	5/20 日経 BP 記事検索サービス活用セミナー
5月	5/31 豊泉第59号 Web 公開

2024年1月、医学部分館にミーティングルーム及びラーニングコモンズスペースが設置されました。ミーティングルームは防音効果の高い密閉型のパーティションとスタッキングデスク、チェアを設置し、授業や演習、サークルのミーティングなど様々な用途で使用できます。

3月1日より、1,505点の弘前大学闘争関係資料を貴重資料として指定しました。また、今年度は昨年度に引き続き「官立弘前高等学校資料群」のデジタル化を行い、「本省令達書類」と「式典関係資料」の2点をデジタル化し公開しました。

令和5年度の利用者アンケートに基づき本館2階にある新着雑誌コーナーの配置の並べ替えを行いました。以前は、雑誌をタイトルのアルファベット順で並べていましたが、ジャンル別での並びへと変更いたしました。

また、3月より、本館1階(第1書庫入口前)に雑誌展示コーナーを設置し、人文社会科学部の先生からご寄贈いただいた1983年から2023年までのキネマ旬報を配架いたしました。1927年から1930年の復刻版は、第2書庫5層にあります。

5月には2種類のデータベースセミナーを開催し、たくさんの方にご参加いただきました。

そして、今年もPOPコンテストを実施します。5月13日から7月12日まで作品を募集しております。たくさんのご応募お待ちしております。



寄贈図書紹介

本学関係者の著作で、図書館に寄贈された図書資料をご紹介します。(令和5年10月～令和6年3月受贈分)

寄贈者	書名	著者・編者	出版社	冊数	所蔵先
亀谷学(人)	都市からひもとく西アジア：歴史・社会・文化	守川知子編	勉誠出版	1	本館1
佐々木時雄(鵬)	負の烙印・自死	佐々木時雄著	新潮社	1	分館1
関根達人(人)	つながるアイヌ考古学	関根達人著	新泉社	1	本館1
関根達人(人)	与論島の再葬墓(科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書：令和3年度-7年度。「奄美群島の葬墓制に関する考古学的研究」研究成果報告書)	研究代表者 関根達人	弘前大学人文社会科学部文化財論研究室	1	本館1
田中岩男(名)	鷗外と『ファウスト』：近代・時間・ニヒリズム	田中岩男著	鳥影社	1	本館1
羽濑一代(人)	社会にひらく社会調査入門	文貞實 [ほか] 編著	ミネルヴァ書房	1	本館1
羽濑一代(人)	「若者の性」白書：青少年の性行動全国調査報告	日本性教育協会編	小学館	1	本館1
弘前大学出版会	電子情報工学実験I：実験の手引き	弘前大学理工学部電子情報工学科編	弘前大学出版会	1	本館1
弘前大学出版会	電子情報工学実験II：実験の手引き：アナログ回路・デジタル回路	弘前大学理工学部電子情報工学科編	弘前大学出版会	1	本館1
帆苺基生(教)	サンリオ出版大全：教養・メルヘン・SF文庫	小平麻衣子 [ほか] 編	慶應義塾大学出版会	1	本館1
松木明知(名)	現代若者の幸福：不安感社会を生きる	松木明知著	克誠堂出版	1	本館1

※敬称略。寄贈者名の50音順。カッコ内は寄贈者所属。

(人)：人文社会科学部 (鵬)：鵬桜会 (名)：名誉教授 (教)：教育学部



令和6年3月、人文社会科学部 熊野真規子先生から映画雑誌キネマ旬報のバックナンバーをご寄贈いただきました。本館1階(第1書庫入口前)の雑誌展示コーナーに配架しておりますので、ぜひご利用ください。

令和6年1月、本学理学部卒の中田祐樹様(株式会社じどうしゃや)より寄附をいただきました。中田様の趣意に従い図書購入支援に活用させていただきます。本当にありがとうございました。



第10回附属図書館 POP コンテストのご案内

募集期間：2024年5月13日(月)～7月12日(金)

POPとは、店頭に置いたり商品につけたりする広告のこと。本屋さんなどで、メッセージカードのような個人的で面白いPOPを見つけることができます。

おもしろかった 泣けた ためになった

貴方のおススメの本を、絵や文で紹介してください。

応募要項はこちら <https://ul.hirosaki-u.ac.jp/about/events/contests/>



☆☆賞品は図書カード☆☆

大賞 3万円分
優秀賞 1万円分
佳作 3千円分
サンライズ産業賞 1万円分

協賛：サンライズ産業株式会社様

問い合わせ 0172-39-3163
応募先 jm3163@hirosaki-u.ac.jp

情報サービスグループ
本館1階サービスカウンター

◆編集後記

以前「文字が小さすぎる」というご意見をいただきました。限られた紙面にレイアウトするのは難しく、試行錯誤の日々です。

(Maruyama)

現在第10回POPコンテストを開催中です。多くの方々にご参加いただければと思います。皆様からの素敵な作品のご応募お待ちしております。

(Tsushima)

図書館では、貴重資料のデジタル化を実施しております。今回表紙の写真は官立弘前高等学校資料群のなかで文部省報告した昭和15年度の図書館統計です。また、戦時中の資料には、資源不足のため学生服の釦や銀製盃を供出するよう通知した文書など貴重な資料がたくさんあります。ご覧いただければ幸いです。

(Sasaki)

弘前大学附属図書館報「豊泉」 第59号

発行日：令和6年5月31日

発行：弘前大学附属図書館

編集：弘前大学附属図書館広報委員会

〒036-8560

青森県弘前市文京町1

TEL 0172-39-3163

FAX 0172-39-3171



◆◆◆◆◆図書館員ちよこっとコラム◆◆◆◆◆

附属図書館と弘前大学に関係している私の気にいっている3つのクラシック音楽を某番組で俳優が演じたように紹介します。

一つ目は、リヒャルト・ワーグナー先生の「ニュルンベルクのマイスタージンガー」です。この曲は、本館の開館時に流れております。毎朝この曲を聴きながら教育学部側の玄関を解錠し、館内の掃除をしております。今日も一日頑張ろうという気分になります。また、ワーグナーといえば、フランシス・フォード・ Coppola監督の「地獄の黙示録」で使用された「ワルキューレ」が有名です。クラシック音楽に興味がない人でもこの曲は知っている人が多いと思います。

二つ目は、アントニン・ドヴォルザーク先生の「交響曲第9番「新世界より」第2章（家路）」です。医学部分館の開館時に流れております。弘前大学に異動し、最初に勤務（30年前）したところが医学部分館でした。当時は、午後8時閉館で学生アルバイトもなく職員が交替で勤務していました。この曲を聴き、早く自宅へ帰ろうと思いながら閉館作業を行っていたことが思い出されます。

(ささき ただし)

この曲は別名「遠き山に日は落ちて」といわれるように太陽がゆっくり沈む情景が浮かびます。全国の市町村で夕方のチャイムとして利用されているようです。

三つ目は、エドワード・エルガー先生の「『威風堂々』第1番」です。大学の入学式や学位授与式で弘前大学フィルハーモニー管弦楽団が演奏しています。この曲を聴くとこれからおごそかな式が始まるという感じがします。コロナ禍が明け、通常の体制にもどり今年の入学式で演奏されました。多くの学校で入学式や卒業式で演奏されているようです。

コロナが広まったことでクラシック演奏会を聴く機会がなくなりました。演奏は、テレビ・ラジオ等で聴くことができますが、生演奏が一番です。上記3曲のうち、プロの演奏会で「新世界より」数回、演奏を聴きましたが、「ニュルンベルクのマイスタージンガー」や「威風堂々」を聴いたことがないので、首都圏の有名なホールで聴きたいと思っているこの頃です。

論文投稿時の掲載料(APC)支援 2024.1~

弘前大学では2024年1月より、Wiley社及びOxford社との契約において、電子ジャーナル購読料とAPCを包括した転換契約(Read&Publish契約)を導入しています。これによるオープンアクセス出版支援の詳細については、下記の学内限定ページをご覧ください。

◆Wiley社 https://ul.hirosaki-u.ac.jp/support/teacher/rp_wiley/ (※学内限定)

◆Oxford社 https://ul.hirosaki-u.ac.jp/support/teacher/rp_oxford/ (※学内限定)